

「ヤマダ電機女子陸上部」特報

キャプテン・江田良子選手 世界選手権代表に決定!



名古屋国際で3位フィニッシュした江田選手

**2005名古屋国際女子マラソンで3位入賞
35km地点ではトップに立つ大激走
自己ベスト2時間24分54秒でフィニッシュ**

ヤマダ電機女子陸上部の江田良子選手が、8月にヘルシンキ(フィンランド)で開催される「第10回世界陸上競技選手権大会」のマラソン代表選手に決定した。

江田選手は3月13日に開催された「2005年名古屋国際女子マラソン大会」において、自己ベストの2時間24分54秒をマークし、3位に入賞。この好成績が日本陸上競技連盟に評価されての代表決定となった。

名古屋国際は過去、高橋尚子選手(2000年、1998年)や野口みずき選手(2002年)など、オリンピックのゴールドメダリストたちが制してきた名門大会だ。

2005年大会の下馬評では、渋井陽子選手に注目が集まっていた。昨年のベルリンマラソンで高橋尚子選手の記録を上回る、2時間19分41秒の日本記録で優勝した日本最速ランナーだからだ。

渋井選手自身、早くから「目標は当然優勝」と宣言しており、体調も万全と報じていた。関係者の一部からは早くも「ヘルシンキの金メダルはすでに射程距離」と

の聲が挙がるほどだった。

実際のレース展開でも渋井選手は序盤から実力を発揮し、30km地点まで先頭集団をリードしていた。

ところが30km地点を過ぎたあたりで、先頭集団のペースが徐々に上がり始めると、逆に渋井選手はペースダウン。35km地点では先頭から9秒離されるという思わぬ展開となった。

代わってトップに立ったのが江田選手だ。この日のために過酷なトレーニングを積んできており、その成果が一挙に出た瞬間だった。

その後トップは、大島めぐみ選手(2位)、原裕美子選手(優勝)らがめまぐるしく入れ替わるデッドヒート。37km地点では、先頭集団が大島、原、江田の3選手に絞られた。そして40km地点で原選手が抜け出し、マラソン初出場で初優勝の快挙を成し遂げたのである。

一方、江田選手は混戦の中にあって最後まで上位2選手に食らいつき、自己ベストタイムでの3位入賞を果たした。

江田選手は今、ヘルシンキに向けた調整に入っているが、体調は引き続き万全とのこと。8月6日から始まる世界選手権では、さらなる好成績が期待できそうである。

江田良子選手
生年月日:1976年6月12日
出身地:秋田県
出身校:城西大学女子短大
自己ベスト:2時間24分54秒
主な記録:
2005年名古屋国際女子 / 3位
2004年全日本実業団女子駅伝 / 5区12位
2004年東日本実業団女子駅伝 / 5区8位)
2004年大阪国際女子 / 6位
2002年大阪国際女子 / 6位

